

【様式 02】 高大連携公開講座シラバス

* 科目 No.	06205
----------	-------

1. 開設大学	県立広島大学 生命環境学部	開講場所 (キャンパス・施設)	広島キャンパス
2. 科目名	現代の食料事情を考える～研究室から地域, そして世界へ		
	学問分野	番 号	33 名 称 農学
3. 担当教員	入船 浩平 生命科学科 教授 甲村 浩之 生命科学科 准教授 村田 和賀代 生命科学科 准教授		
4. 開講期間 (曜日) 開講時間	平成 28 年 7 月 23 日 (土) 9 時 40 分 ~10 時 30 分 (甲村) 10 時 40 分 ~11 時 30 分 (入船) 11 時 40 分 ~12 時 30 分 (村田)		
5. 募集定員	50 人程度		
6. 科目内容・ 授業計画	<p>食料の生産や確保は、私たちの生命や健康の根幹にかかわる重要な課題です。本講座では、「現代の食料事情を考える～研究室から地域, そして世界へ」と題して食料の生産や流通にかかわる現状や課題について、地域の生産現場、先端技術の研究現場、日本と世界の間の流通現場からそれぞれの専門研究を行っている県立広島大学生命科学科 (庄原キャンパス) の講師がわかりやすく授業を行います。</p> <p>1. 甲村 浩之 「地域資源を活用した野菜栽培研究」 広島県は良食味米の産地として注目されています。水稲生産は機械化が進み、育苗ハウスも均一な苗生産ができるように整地されていますが、その多くは田植え後に遊休化しています。そこで、施設やもみ殻の有効活用をめざして夏秋トマトやアスパラガスの冬採りのための袋利用栽培の研究に取り組んでいます。その他の野菜栽培と機能性成分に関する研究も合わせて紹介します。</p> <p>2. 入船 浩平 「遺伝子組換え技術と食料生産」 遺伝子組換え技術は、耐害虫、耐除草剤などの遺伝子を組み込んだ組換え作物を第 1 世代として作り出しました。第 2 世代では、ストレス耐性、薬剤や燃料の生産といった作物の生産を目指した研究がすすんでいます。その現状について技法や課題について紹介します。</p> <p>3. 村田 和賀代 「貿易紛争における食料・農産物」 日本人の食生活は、輸入農産物に依存しています。国際機関の WTO (世界貿易機関) のルールの下で自由貿易が促進され、新たに TPP (環太平洋経済協定) にも参加を決定しました。しかし、国ごとに目指す農業・貿易政策が異なり、依然として対立も残っています。農産物や食品に関わる貿易紛争の例を見ながら、対立のポイントや私たちの食生活について考えます。</p>		
7. 受講料	無料		
8. 別途負担費用	(テキスト代・実習料等) 特になし		
9. 開講条件※1 <input checked="" type="checkbox"/> あり・ <input type="checkbox"/> ない	① 最少開講人数 (10 人) 定員超過の不許可は選考により決定 ② 不許可・不開講通知日 6 月末		
10. その他特記事項	受講者についての制限事項、事前に予習しておく資料・文献など特記すべきこと		
11. 開設大学への 交通手段	http://www.enica.jp/ から開設大学のホームページにジャンプして確認してください。		

※1 申込時点で原則、受講できます。ただし、開講条件で不許可・不開講があった場合は受講申込者へ通知します。